

平成 22 年度 富士市学校給食地場産品導入協議会 総会 報告

日時：平成 22 年 5 月 17 日（月）14：00～

場所：富士市公設地方卸売市場会議室

文責：小櫛 和子

平成 22 年度 委員（代理及び参加者）

富士市教育委員会 学校教育課長（学校教育課主幹）

富士市学校給食検討委員会 会長（栄養士 3 名）

富士市学校給食を考える会 会長

岳南地場野菜県内供給対策協議会

特約生産出荷研究会会長（欠席）

(有)富士正青果代表取締役社長

岳南青果商業協同組合理事長

富士中央青果株式会社

代表取締役社長

常務取締役

取締役野菜部長

（総務部長）

富士市学校給食納入業者（代表 2 名）

富士市農業協同組合 営農課長（主任）

するが路農業協同組合 営農課長（欠席）

富士市商業労政課 商業労政課長（主幹）

富士市農政課 農政課長・（及び主事）

富士市保健医療課 保健医療課長（主査）

富士市農林事務所 地域振興課長・（及び専門監）

***委員の三分の二以上の出席があり、総会成立（規約第 9 条より）**

会長挨拶

本協議会は、「安全・安心な地場産品を学校給食により多く導入しながら、子ども達への食育の推進を地域ぐるみで行っていくこと」を目的とし、平成 18 年 9 月に発足。今年 5 年目を迎える。

昨年度より行っている「学校給食地場農産物利用拡大事業」は、今年度で最終となる。今まで予算ゼロで行ってきた協議会だが、今回、国の予算で事業を行えるので 2 年目の今年度は、さらに有意義に活用したい。

平成 21 年度 事業報告（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

- 平成 21 年 5 月 22 日 平成 21 年度 総会
平成 20 年度活動報告
平成 21 年度役員改選・活動計画について
農家出前事業・地域農産物カレンダーの作成
- 10 月 16 日 第 1 回 農家出前授業の開催
鷹岡小学校 3 年生（117 名）対象
エコファーマー半田佳史氏による「かぶ」の
授業
- 10 月 19 日 臨時総会
国の「学校給食地場農畜産物利用拡大事業」
について・・・承認
第 2 回農家出前授業・地域農産物カレンダー
等の作成について・・・承認
- 11 月 11 日 生産現場視察・交流会の開催
会員及び学校栄養士等が参加
富士市（施設きゅうり）・富士宮市（施設小松
菜・路地ハネギ・路地ほうれん草）の圃場
- 11 月 20 日 協議会検討会（事務局会議）の開催
「学校給食地場農産物利用拡大事業」実施の
検討
- 平成 22 年 2 月 12 日 第 2 回 農家出前授業の開催
鷹岡小学校 4 年生（119 名）を対象
半田氏による「かぶ」の授業
- 2 月 26 日 協議会検討会の開催
「学校給食地場農産物利用拡大事業」の給食
献立の内容についての検討
- 3 月 12 日 学校給食納入業者研修会及び協議会の開催
研修：導入協議会の活動紹介・食育推進モデル

地区での学校給食活動（大淵第一小）の報告
公設市場における地場産供給状況調査報告

3月15日 富士地域農産物生産カレンダーの作成 1,000部
富士市域エコファーマーポスターの作成 1,000部
各学校・幼稚園・保育園・納入業者・関係機関
・協議会会員等に配布

2. 役員改選

会長・・・富士中央青果株式会社代表取締役社長 坂野 友廣 氏
副会長・・・富士市農政課 農政課長 杉山 弘宜 氏

3. 平成22年度 事業計画

協議会の開催・・・総会・協議会・協議会検討会

農業生産現場視察及び現地交流会（1回）・・・協議会委員及び学校給食関係職員

他地域の学校給食事例視察及び交流会(1回)・・・三島市などの現状視察と関係者同士の
情報交換。学校関係・業者を含んだ協議会委員

地域代表農家による出前事業・・・年3回程度

市場が勧める「旬の食材」情報提供・・・年4回程度

天候不順の影響等必要な情報提供は、協議会の場だけでなく、順次学校へ担当者を通じておこなう

その他食育の推進に関する活動支援

大淵地区（食育推進モデル地区）での学校給食における地場産品推進事業への支援

富士市学校給食展で使用する教材（料理のレプリカ等）への支援

その他、食育推進に関する支援

*具体的な事柄は、事務局と協議会検討会に一任する。

（話し合いの中で）

- ・ 学校給食での地場農畜水産物の利用状況調査が、国の調査に合わせて年2回行なわれている。2007年までの調査では、市内のほとんどの学校が、利用率30%以下だった。今回、2009年度は、6月（6.15~6.19）では、県内産31.3%、富士地域産10.4%。11月（11.16~11.20）では、県内産34.2%、富士地域産13.0%と前進した。学校給食現場も

納入業者も、意識が変わってきたと思う。

補足：全国では23%、静岡県では21%（2007年静岡新聞調査より）

- 平成22年度事業計画にある、「農業生産現場視察及び現地交流会」や「他地域の学校給食事例視察及び交流会」は、学校関係者の参加を考えるなら、日程が限られているので早めに調整してほしい。また、今回 予算が取れる中、学校給食検討委員会の視察と別々に行うのではなく調整してほしい。他地域との交流会は、事前に質問を出してもらうとか、分科会のようにテーマごと分かれてそれぞれの問題を整理して全体で共有するなど運営方法も考え、有意義な会にしてほしい。

大淵での取り組みは、富士市食育推進計画のモデル地区として3年間取り組むことになっている、2年目になる。大淵第一小学校の栄養士と地域との連携した取り組みと聞いている。ぜひ、大淵での取り組みをモデルとして全市に広がるよう、この協議会として、支援してほしい。

富士市で行われる学校給食展は、少ない予算の中毎年工夫して行っていると思うが、今年度予算があるなら、給食展で来年度以降も活用できるものに支援してほしい。

- 三島市と交流できたら知りたいこと

地場産品の導入がどの程度あるか

地域ぐるみの導入方法、農家との関係づくりをどうしているか

生産者から集めて流通にのせるルート、あるいは、生産者が直接学校に納入するルートを知りたい

注文を受け、地場のものがそろわない時どうするか・・・注文が殺到した時、数量や単価の調整が難しい。年間を通じて地場を半分以上そろえるのは困難

週5回、ご飯食にした時のメニュー、残飯の問題など

- 納入業者は、学校側（栄養士など発注者）から要求されると“絶対”と思いがち。しかし、地場産重視が行き過ぎると、価格が異常に上昇するなど無理が出てくる。ポイントを上げるために地場産を利用することと、安定的に一般流通のものを利用することを、担当の八百屋さんとも早めに打ち合わせてほしい。
- 今年は、キロ当たりの単価は128%アップ、入荷率は90%という状態。地元の専門農家が初めての経験と言うほど、全国的にも近年にない悪天候による不作で、3、4月は、雨で肥料が流れて作物が栄養失調の状態になっている。ゴールデンウィーク以降に種植えたものは安定供給できそうだが、天候により不安定。地場でそろわない時は、近隣の県で間に合わせてほしい。

